

避難所探す障害者

熊本地震

情報なく健康損なう

熊本地震で大きな被害を受けた多くの自治体で、障害者や高齢者など災害弱者を受け入れる福祉避難所の開設が遅れています。(武田祐一)

職員も被災し 人手不足深刻

熊本市は、約1700

43施設、受け入れたのは207人と極めて少ない状況となっています(27日現在)。

人の災害弱者を受け入れられるように市内176カ所の施設と、福祉避難所として利用する協定を結んでいました。ところが、福祉避難所の開設はあげます。



福祉避難所となっている熊本県身体障がい者能力開発センターで、入所者(右)とともにくつろぐ避難者たち=28日、熊本市東区

同市東区の県身体障がい者福祉センターは21日から市の福祉避難所に指定されたばかり。同センター職員(柳(やなぎ)教子さん)は「職員も被災して人手も不足しており、宿泊対応で手いっぱい」と話します。

障害者や高齢者の利用が少ない原因の一つに、当事者や支援者に周知されていないことがあります。

市は各避難所に保健師を派遣し、障害者や高齢者に聞き取り調査し、福祉避難所へ移れるよう手配しています。

特別な配慮が必要な障害者や高齢者にとり、一般の避難所での生活は極めて困難です。要望をつかみ、必要な対応が求められます。

福祉避難所になっている県身体障がい者能力開発センター(同市東区)に避難中の障害者に、たどり着くまでの経過を聞きました。

同市南区に住む藤本健太郎さん(37)は脳性まひのため障害があります。「近くの避難所には車いすで入れるトイレが

ありませんでした。損壊した自宅のトイレを使い、車中泊で避難生活をしていました。エコノミークラス症候群になりかけ、知り合いを通じて移りました。

老人ホームも 年齢制限で

同市中央区に住む村山幸徳さん(63)も脳性まひです。震災後、民生委員に助けられ、ある老人ホームに運んでもらいましたが、65歳以上でなければ利用できません。一晩で市内の大学の体育館に移されました。「障害者用トイレが一つしかありませんでした。使用中に何回もドアをたたかれて、尿が出にくくなる病気になる、入院しました。退院後、同センターに移ることができました。

日本共産党の那須円熊本市議は「福祉避難所を利用している高齢者はわずか70人ほどです。必要としている人たちへの情報発信をもっとするべきです。また各施設の受け入れ態勢への支援も必要です」と話していました。

車いすで入れるトイレない